

1. これからはじめる防災対策・10  
～市街地の大規模火災に備えて～

---

●火災に弱い市街地

これからの寒い時期、  
特に気をつけたい災害は、火災です。

建物が密集している市街地では、  
いったん火災が起きると、消火が難しい場合があります。  
消防車が進入できない場所や、  
消火栓などから消防ホースの限界とされる半径140m（平常時）を超える場所は  
「消防活動困難区域」といわれています。

これは都市部だけの問題でなく、  
昔からの住宅地など、全国的にあちこちに存在します。

●強風による大火災

市街地では、強風によって延焼が拡大し、大火災が発生するケースがあります。

たとえば2016年12月、  
新潟県糸魚川市の大火災では、  
約4万平方メートルにわたって燃え広がり、  
147棟の建物が被害にあいました。

2017年10月、兵庫県明石市では、  
約2,600平方メートル、  
店舗兼住宅約30軒が全焼しました。

●地震による大火災

このほか市街地では、大きな地震によって大規模な火災となる可能性があります。

同時多発的な火災が発生したり、  
建物や塀や電柱が倒れて道路が塞がれたり、  
消防用の水が不足したりするなど、  
通常の消防では対応できない状況も生じて、  
大きな火災に発展しやすくなるからです。

●災害時に危険な市街地

市街地では、建物の燃え広がりやすさ（延焼危険性）とともに、  
避難のしにくさ（避難困難性）にも目を向けなければなりません。

政府は、そうした市街地を「地震時等に著しく危険な密集市街地」として  
12都府県27市区町村を指定し、注意を促しています。

<http://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/denkikasaitaisaku/missyuu/index.html>

地震で倒壊した建物などで道路が塞がれると、  
消防活動だけでなく避難の障害ともなります。

こうした道路の閉塞は、

- ・沿道の建物が古い
- ・道路幅が狭い
- ・一方向しか避難できない
- ・行き止まりが多い

というところで発生しやすくなります。

自分が住んでいる家や学校の周りの建物・道路がどういう状況であるのか、  
これらを普段から理解しておくことは、  
市街地での火災に備えるという上で大切なことです。

(一財) 防災教育推進協会 笠間 正弘